

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	キャリアプランニング1
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	Power Pointによる板書と必要に応じてプリントを作成し配布、キャリアサポートブックを使用する				
担当教員情報					
担当教員	志鎌克彦/原田博之			実務経験の有無・職種	有・音楽業界関係企業
学習目的					
この講義では学生のスクールライフにおいて学校について知っておくべき事柄を周知すると共に、「人」として信頼されるような礼儀作法やマナーをクラス担任が伝えていく。日々当たり前になってしまっている事柄をひとつひとつ言葉の意味を解きながら説明することにより、その作業をする意義を学生たちが気づくよう、道徳のニュアンスを持たせながら説明していく。特に日々自分自身を振り返ることに軸を置いており、自分自身を顧みることにより俯瞰的な目線を持つようになる。これらを毎週3行の日記形式で手書きさせて提出させ、担任との意思疎通と学生状況の把握に繋げていく。またレポートなどで自分の気持ちを自筆で文字にするという機会を増やすことにより、将来的に就職活動で履歴書に記述することの抵抗を減らしていく。					
到達目標					
この講義では学生それぞれが社会に出る上で必要な自信をつけることを大切にし、学校生活を通じて社会性を身に付け、社会で受け入れられる礼儀作法を習得することに重点を置く。挨拶をする意義を学び、現場で挨拶ができることが当たり前になるよう指導をしていく。またマナーや礼儀は自分のためではなく、周囲にいる相手に対して行うことであることを理解させ、普段から身だしなみや言動に気を遣え、人に愛される現場人として活躍できる社会人を育成する。就職・インターンシップ情報を周知し、将来に繋がる学生生活が送れるようサポートするほか、3行日記の実施により文字を書くことに対する抵抗を失くし、エントリーシートや履歴書に自分の気持ちをしっかり表すことができるようにする。					
教育方法等					
授業概要	通年を通してPower Pointを使用した視覚に訴える講義を展開し、必要であれば紙資料を配布する。グループワークを取り入れて他の学生との情報共有を行える環境づくりを行う。これにより1対1でテーマに応じて話すことに慣れ、面接対策に繋げていく。基本的に社会人として立ち居ふるまえる指導を行うため、挨拶や言葉遣いは厳しく指導を行っていく。キャリアサポートブックを活用し、1年次からは自己分析や振り返りの意義を伝え、自分自身を俯瞰的に見れる視点を養う。				
注意点	専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。社会に出れば交通機関が乱れようとも仕事に遅れないことが基本であるため、その認識を高める。また一般常識問題に関しては知らない単語や言葉が出てくることがもししばしばあり、その日分からなかったことは講義にあたる担任に確認したり、自ら調べることを怠ってはいけない。コミュニケーション力を重視するため、仲が良い学生だけではなく普段関わりの薄い学生とも交流を持ち、視野を広げること。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	自分が所属するクラスを知る		クラス内で自己紹介を実施し、出身地や出身高校、趣味などからクラスメイトのことを知る		
2回	挨拶について		なぜ挨拶をするのか、挨拶をすることで人間関係がどのように変わるのかを学ぶ		
3回	会話について		人の悪口を言うてはいけない理由、人と話す上で大切にすべきことをポイントにして学ぶ		
4回	自己の振り返り		これまでの自分がどのように人生を過ごしてきたかをレポートにし、自分自身を俯瞰的に見つめる		
5回	目標の設定		専門学校に進学した理由を今一度考え、卒業時の自分の姿を設定する		
6回	目標に対するプロセスの設定		設定した目標に到達するために自分がこの2年間ですべきことを行動年表にする		
7回	コース選択に備える		ミュージックアーティスト科で設定されているコースの概要を知り、後のコース選択に活かす		
8回	感性を養う（1）		ライブ映像を視聴して、感じたことをレポートにしてまとめる		
9回	感性を養う（2）		作成したレポートを元に、他の学生とディベートを実施する		
10回	感性を養う（3）		試聴したコンサート映像について感じたことをまとめ、全体で発表する		
11回	レポートとは		レポートを書くということがどのようなことを再確認する		
12回	メモすることの極意		現場で必要な「メモ」の取り方を、言葉を理解するところから知り、自己の成長に活かす		
13回	目標の再設定		基礎実習を終えた上で、卒業時点での目標を再設定する		
14回	行動の見直し		第6回で作成した行動年表を見直し、目標に向けてのプロセスを再確認する		
15回	まとめ		全体のまとめ		